

令和6年度（2024年度） 中間評価調書

中間1	北海道における食品及び環境試料中の放射能実態調査	課題番号	23-02												
研究目的	原子力関連事象（原発事故、核兵器の使用及び実験、核廃棄物投棄等）による将来の不測の事態に備え、北海道における現在の放射能レベルの実態を把握し、道民の暮らしの安全に寄与する基礎資料とする。														
研究内容	食品及び環境試料中に含まれる放射性核種の含有量、濃度を調査し、現在の放射能レベルを把握するとともに、過去の放射能レベルとの比較も反映した影響評価を行う。														
研究期間	令和5～令和7年度	課題担当者	4人												
関係施策 行政検査	北海道食の安全・安心基本計画【第4次】 食品の放射性物質検査、海水の放射性物質モニタリング調査														
○ 研究ニーズ（背景、必要性、緊急性） - 当所では、過去に実施された大気圏核爆発実験やチェルノブイリ原発事故等により環境中に放出された人工放射性核種について、その長期にわたる影響評価や原子力関連事象による不測の事態に備えた基礎データ収集のため、各種食品や環境試料の調査を実施し、結果について公表してきた。 2011年の東京電力福島第一原子力発電所事故では、事故前に実施した当所の調査研究データにより、北海道への影響評価を行い、地域住民の安全・安心に寄与することができた。 - 福島原発事故から約13年が経過し、その後の調査により現在の北海道における放射能レベルは当該事故以前にほぼ等しくなったと考えられているが、未だ国内では水産物や山菜等、出荷規制を受ける食品が存在する。また、日本からの輸入制限を実施している国々も減少傾向であるが存在する。加えて、国内での原発再稼働も徐々に進められており、更に核保有国による地下核爆発実験や核兵器の使用のリスクが増加しつつあることから、今後起こり得る不測の事態に備える必要がある。 - 道における食品及び環境試料中の放射性物質に対する安全・安心を担保し、今後の原子力関連事象等による不測の事態へ備えるためには、継続的に食品や環境試料等の放射能データを把握・蓄積・公表していくことが必要である。 ○ 道が取り組む必要性 - 道の施策である「食の安全・安心基本計画【第4次】」と関連し、食料生産基地北海道における食の安全性を担保する上でも重要なデータとなる。 ○ 研究の進捗状況 <table><thead><tr><th>年次等</th><th>主な目標（項目）</th><th>進捗状況</th></tr></thead><tbody><tr><td>令和5年</td><td>道内における食品（日常食、市販牛乳等）、環境試料（きのこ、山菜等）の人工放射性物質に関する経年調査</td><td>・食品及び環境試料について、日常食(19)、市販牛乳(9)、キノコ(6)、山菜(2)、海水(36)の採取・分析を行った（括弧内は試料数）。</td></tr><tr><td>令和6年</td><td>同上</td><td>・市販牛乳(3)、キノコ(17)、山菜(4) 海水(9)の採取・分析を行った。 ・日常食のデータについて所報に投稿中。</td></tr><tr><td>令和7年</td><td>道内における食品、環境試料の人工放射性物質に関する経年調査および結果の取りまとめ</td><td></td></tr></tbody></table> ○ 成果の活用策（活用の可能性） - 将来の原子力関連事象等による不測の事態に対応する際の基礎資料とする。 - 北海道の放射能に関する食の安全・安心への不安を払拭するための一助となる。 - 北海道食品衛生監視指導計画立案の基礎資料として活用できる。				年次等	主な目標（項目）	進捗状況	令和5年	道内における食品（日常食、市販牛乳等）、環境試料（きのこ、山菜等）の人工放射性物質に関する経年調査	・食品及び環境試料について、日常食(19)、市販牛乳(9)、キノコ(6)、山菜(2)、海水(36)の採取・分析を行った（括弧内は試料数）。	令和6年	同上	・市販牛乳(3)、キノコ(17)、山菜(4) 海水(9)の採取・分析を行った。 ・日常食のデータについて所報に投稿中。	令和7年	道内における食品、環境試料の人工放射性物質に関する経年調査および結果の取りまとめ	
年次等	主な目標（項目）	進捗状況													
令和5年	道内における食品（日常食、市販牛乳等）、環境試料（きのこ、山菜等）の人工放射性物質に関する経年調査	・食品及び環境試料について、日常食(19)、市販牛乳(9)、キノコ(6)、山菜(2)、海水(36)の採取・分析を行った（括弧内は試料数）。													
令和6年	同上	・市販牛乳(3)、キノコ(17)、山菜(4) 海水(9)の採取・分析を行った。 ・日常食のデータについて所報に投稿中。													
令和7年	道内における食品、環境試料の人工放射性物質に関する経年調査および結果の取りまとめ														

	評価結果	説 明	継続判定
自己評価	Ⓐ・B・C	道内の食品及び環境試料における人工放射性物質の分析やデータ蓄積を行いながら、データの一部を公表しており、計画通りに進行している。	⓪・否
外部評価	S Ⓐ・B・C	同上	⓪・否
総合評価	Ⓐ・B・C	本研究は、不測の事態が発生した場合に、科学的データに基づいてその影響を評価し、道の施策を決定するためにも、今後も更なる研究を進める必要がある。	Ⓐ・否